

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ぐっど 生野小路		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 27日 ～ 2025年 2月 14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○従業者評価実施期間	2025年 2月 17日 ～ 2025年 2月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士による言語療育	言語療育に関しては、保育士などの資格保持者ではなく、国家資格である言語聴覚士の資格を保持するスタッフを配置することにより、専門性の高い療育を提供している。	グループ内や外部の言語聴覚士同士の交流を増やし、互いの言語療育に関する知識や技能を学ぶ機会を持たせる。
2	土曜日には、ほぼ毎週、公園や野外活動を取り入れている。	非日常的な体験や日頃の運動不足の解消を目的に、毎週土曜日に、公園での運動や野外活動を取り入れている。保護者の週末の育児・家事負担を軽減し、お子さんのストレス発散できるように、体をよく動かし大きな声を出したり、笑ったりできるように工夫している。	毎週土曜日に、お子さん本人に、行きたいところはどこかを聞いているが、スタッフの運転技能の観点から中々お子さんの要望に沿えないことも多い。運転技能が卓越しているスタッフの採用などにより、要望に応えられるように常に取り組んでいる。
3	学習する部屋と遊びの部屋を分離している。	お子さんは、注意散漫になるのが通常であり、その解決策として、1階の遊びの場と2階の学習する場に分離し、集中力が続くような環境を構築するようにしている。	言語療育も学習なので、学習の場である2階で言語の療育を行うが、言語療育とその他の学習の部屋も分離することで、さらに集中できる環境を構築できるようにしている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個々のお子さんの細分化された成長課程の把握の欠如	客観的な評価基準となる指標が存在しないため、お子さんの成長課程の遅れの軽重に関して、アバウトに評価し、緻密な支援につながっていない可能性がある。	知的能力や発達障害、学習における苦手分野を把握するため、WISC-Vや田中ビネー、K-ABCⅡなどの検査を導入し、お子さんの成長過程を緻密に把握する必要がある。
2	事業所内で勤務する言語聴覚士が1名であること	そもそも専門的な資格である言語聴覚士の採用は、困難であり、1名しか言語聴覚士がいない事業所では、その言語聴覚士の退職により、言語療育の提供が停止してしまう。言語聴覚士による言語療育を継続的に提供していくためには、複数名の言語聴覚士の採用が必要である。	今後も、言語聴覚士の採用に力をいれ、言語聴覚士による言語療育の提供を継続していく。
3	営業時間の短さ	営業時間は、12時からであり、ほとんどのお子さんは12時以降からの利用となっている。そのため午前中からの利用は、ほぼできないことになっている。	保護者から午前中の利用の要望があれば、12時前に出勤するスタッフには手当を支給するなど、午前中でも積極的に勤務できるような環境を整備する。